

花のチカラ 緑のココロ

2016年 夏号



残暑お見舞い申し上げます



園芸福祉活動の社会的インパクト

6月18日に三重県で開催された「第15回園芸福祉シンポジウム in みえ」のテーマです。インパクト (impact) は、“衝撃”とか“衝突”と訳されますが、ここでは“影響を与える”という意味です。園芸福祉という思想、技術、運動、実践を世に唱えて15年以上が経ち、どのような影響を与えたのかを考える機会となりました。

シンポジウムは、「高校生レストラン」で有名な三重県立相可高等学校と、三重県障がい者就農促進協議会、日本園芸福祉普及協会の共催で、三重県多気町で開催されました。相可高校生産経済科の生徒による、地場農産物を活用し地域企業と協働で開発したコスメ商品の発表では、『世に言う6次産業に幸せ（4合わせ）で10次産業』という言葉がいつまでも残っています。また、三重県は障がい者の農業分野への参画も先進的です。県と共に進める取り組みや、農福連携による中山間地域づくりなどを報告していただきました。十数年前は、ボランティアで支えられていた園芸福祉の活動も、先達の活動実績のおかげから社会的に認められ、まだ充分とは言えませんが、報酬が用意されたり地域経済に組み込まれたりする機会が増えてきました。「ボランティア」と「なりわい」が両輪となり、人や地域を耕し豊かな地域社会を創り出して行く。花やみどりが果たす役割は年々拡大し、園芸福祉がソーシャル・インパクト（社会貢献型投資）の対象となる時を迎えつつあると感じます。



懇親会は、隣の松阪市の焼き肉屋です。ロースターを囲んで有名な松阪牛を食べ、美味しく・楽しく懇談し燗されました。シンポジウムの前には、NPOの通常総会を開催し原案通り承認されました。また、理事会が5月23日に新宿区の事務局で開かれ、全国の活動状況や課題を基に総会の議案を審議したことを報告いたします。



(文責：協会事務局 粕谷芳則)

❖地域協力団体のご紹介

現在、全国各地域の園芸福祉活動を支えていくために、都道府県単位で園芸福祉の実践や普及、ネットワークづくりを進めている地域協力団体が21団体あります。地域の活動でお困りのことがありましたら、お気軽に地域協力団体までご相談ください。お近くに地域協力団体がない場合は、当協会までご相談ください。

地域	団体名	連絡先	地域	団体名	連絡先
北海道	北の国園芸福祉研究会	090-9439-1523 (三田村)	滋賀県	NPO法人滋賀の園芸福祉研究会	077-589-2210
福島県	うつくしま園芸福祉の会 担当：関野	024-593-6337	京都府	NPO法人京の農・園芸福祉研究会	075-581-5499
栃木県	園芸福祉とちぎ	0285-53-6825	大阪府	NPO法人たかつき	072-689-9112
埼玉県・東京都 千葉県・神奈川県	園芸福祉首都圏ネット	090-6925-6163 (五十嵐)	兵庫県	ひょうご宝塚園芸福祉協会	0797-86-0619
新潟県	園芸福祉にいがた	0258-86-8121	和歌山県	園芸福祉グリーン倶楽部	090-3489-1130 (井上)
石川県	いしかわ園芸福祉協議会 担当：瀬川	076-225-1478 (内線 4271)	岡山県	NPO法人岡山県園芸福祉普及協会	090-7543-8168 (西村)
長野県	長野県園芸福祉ネットワーク	0265-98-6707	広島県・島根県	ひろしまね園芸福祉協会	0823-33-7173
岐阜県	NPO法人岐阜県園芸福祉協会	0574-72-2222	福岡県	園芸福祉ふくおかネット	090-8626-1586 (黒瀬)
静岡県	NPO法人しずおかユニバーサル 園芸ネットワーク	053-425-8686	長崎県	NPO法人長崎さんさん 21	095-857-3251
愛知県	NPO法人花と緑と健康のまち づくりフォーラム	052-613-1187	沖縄県	沖縄園芸福祉協会	098-895-8820
三重県	三重県園芸福祉ネットワーク	0595-65-8787			

❖園芸福祉士資格審査のご案内

平成28年度園芸福祉士資格審査についてご案内いたします。以下の①～③の審査条件をすべて満たした方は、園芸福祉士資格審査の申込をすることができます。

【審査条件】

- ①初級園芸福祉士の資格更新を1回以上行い、審査申込時点で資格登録者であること。
- ②園芸福祉活動を2年以上行い、年間活動アンケートを2回以上提出していること。ただし、年間活動アンケートは園芸福祉活動の実施報告であること。
- ③当協会または地域協力団体の主催或いは共催のシンポジウム、事例発表会、勉強会、イベント等に1回以上参加していること。審査申込時に自己申告していただきますが、居住地域に地域協力団体がない等、参加が難しい方については別途ご対応いたします。

審査申込期間 平成28年8月3日～8月31日
審査料 3,000円

平成28年度新たに①②の条件を満たした方には審査申込書をお送りいたします。
また、平成27年度以前にすべての条件を満たし今年度審査を希望される方、審査条件を満たしているかご確認されたい方は、8月22日(月)までに事務局までお問い合わせください。

❖活動プログラムのご紹介

フレッシュなハーブやスパイスをリースとして飾りながら、お料理にも使えるキッチンロープをご紹介します。

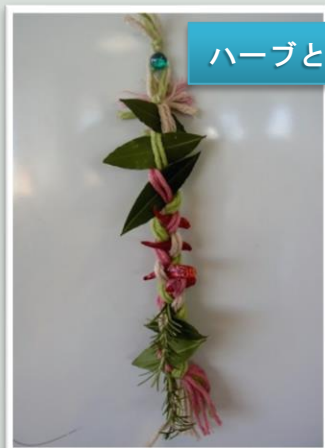
ハーブとスパイスのキッチンロープ

材料

毛糸3色
輪ゴム
ローリエ
ローズマリー
トウガラシ
ガーリック
シナモンなど

作り方

- 1 毛糸3色を70cmくらいに切り、5本ずつ束にして上をそろえる。
- 2 上から2～3cm位を輪ゴムで止めた後、毛糸で結ぶ。その際、出来上がったロープを吊るするための輪をつくっておく。
- 3 柔らかめに三つ編みにする。
- 4 下から5～8cm位を毛糸で結ぶ。
- 5 お好みのハーブを三つ編みにバランス良くさしていく。



✦初級園芸福祉士の自己紹介

本年度は、新たに約 200 名の方々が登録されました。
その中から一部をご紹介します。



私が在住する地域は、昭和 40 年代に宅地開発された分譲地です。人口は 5,000 人程度ですが、高齢化率が市内トップの 4 割超えで、最近では空き地や空き家も目立っています。高齢者が生き生きと、子ども達が元気よく生活できる地域活動の一つとして、空き地の菜園化に取り組み始めました。園芸福祉士として、この活動のリーダー的役割を果たしたいと考えています。自分自身の経験値も上げていきたいので、お近くでイベント等ありましたら是非参加させて下さい。(神奈川県/30 代)

現在、障がい者就労移行支援施設で勤務しています。体力作り、健康維持等、就労に必要な訓練として農園作業を取り入れています。年数回、施設が企画する園芸講座では障がい者の方々と共に農園で栽培したハーブでお茶出しを行ったり活動のお手伝いをしています。これからも楽しい活動の 1 つとして障がい者の方々と共に活動に関わっていききたいと思っています。(新潟県/40 代)

第二の人生は、自分のためにボランティアをしようと思い、ボランティア大学校で園芸福祉と出会いました。受講することで、より植物に関心が深まり、老若男女、誰もが楽しめる活動がある事を学びました。子どもの頃、友達と野山を駆け巡り自然の美しさや、厳しさを体験し、今は森林浴で癒され、恵まれた自然環境に感謝しています。これからも緑化に関わる事をしていきたいと思っています。(石川県/60 代)

花と緑、やっぱり大好きです。日常生活の忙しさにストレスを感じている時でも、植物に触れると自分がリセットされます。文明が発達し、機械で便利になっても、人間はやっぱり大地の上に立つ「生き物」の一種。本能的に自然に触れ続けていきたいのだと実感します。日頃忘れられがちな、植物との、そして人同志のコミュニケーションを大切にしたい、広めていきたいです。(神奈川県/50 代)

知的障害児施設で管理栄養士をしています。食育活動の一環として児童とともに畑で野菜を作り、手作り田んぼで米作りをしています。皆と一緒に育てるよろこび、食べる楽しみを園芸活動を通して味わっています。(岡山県/40 代)

熊本県南阿蘇村にて I ターンでミディトマト農家を夫と営んでおります。ハーブも栽培しております。地震で大きな被害のあった村西部の反対側、東端に在住しております。無事ではありました。植物は成長が止まりませんので、トマト苗のための作業で必死の毎日でしたが、逆に園芸福祉で学んだ「植物の時間」に合わせて生きること、次第に精神的にもペースを取戻せた気がしています。まだ、目の前のことに精いっぱい状態ではありますが、徐々に園芸福祉の活動も行っていけたら、と思っております。(熊本県/40 代)



✦この夏、おすすめの一冊



「動いている庭」 ジル・クレマン著 山内朋樹訳 みすず書房 4,800 円+税



できるだけあわせて、なるべく逆らわない—これが現代造園の世界に新たな一ページを開いた庭師、ジル・クレマンの哲学である。荒れ地での植物のふるまいをモデルとし、土地を土地のダイナミズムにゆだねつつ、植物を知悉する庭師の手によって多彩で豊かな進化をうながすプロジェクト、それが「動いている庭」だ。クレマンにとって、庭は人が驚きと出会う空間、庭の仕事は夢の光景を創り出す営みだ。本書は、庭づくりの手引きを越えた、自然と人間の間をめぐり知恵の宝庫である。この本は新潟県新潟市在住の初級園芸福祉士の方からご推薦いただきました。



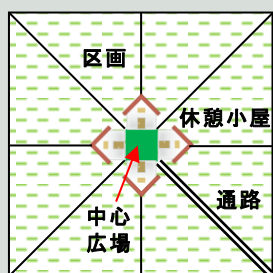


コラム 市民農園万国記 ～コミュニティを築く市民農園～

三角形の
区画割り



前号、3人の奥様達が農作業をして、旦那達はワインを飲んでいたリス・オレンジ（フランス パリ市郊外）の市民農園は、区画割りに特徴がありました。ここの農園は、正方形の土地を縦横斜めに割り、8つの三角形に区分しています。この三角形が一つの区画です。同じ面積なら四角い方が使い易い（作業も作付けも）のですが、効率よりコミュニティを求めたからだそうです。8区画が集まる中心部を囲むように休憩小屋を設けることにより、ごく自然に顔を合わせ、語らうことになります。私たちが伺った時も、大勢の人達が迎えてくれ、誰と誰が家族かわからないほど仲の良いグループでした。こんな人達と時を過ごすことは、土や緑とのふれあいの楽しさを倍増させてくれることでしょう。



今年の8月にオーストリア ウィーンで市民農園の国際会議が開催されます。今年は、オーストリア市民農園協会の設立百周年と、国際組織設立90周年の記念すべき年に当たります。欧州を中心とした各国の市民農園利用者協会が集結します。200万人いる市民農園利用者の今後の取り組み方針や理念の共有を図ると共に、仲間達の親睦・交流が目的です。私も得意分野のノミネーションで頑張ってきます。（粕谷）

求む！各地・各人の活動情報

地域組織や個人の園芸福祉活動の情報を事務局宛にお送りください。また、下記 mail アドレスにご連絡ください。会報などはPDFファイルを添付してメールしていただければ皆様に広報させていただきます。

HP アドレス：<http://www.engeifukusi.com/>

mail アドレス：kyoukai@engeifukusi.com

正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

おすすめの一冊

会報で紹介させていただくお勧めの本を募集しています。みなさんのおすすめの一冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！



編集後記

ブラジル・リオデジャネイロで南米初のオリンピックが開幕しました。ブラジルの名前の由来となる『ブラジルボク』の幹は当時のヨーロッパでは貴重とされていた赤の染料に使われ、非常に高値で取引されたそう。真っ赤に燃え上がる炭火のような赤色をポルトガル語で brasa と言い、それが訛って brasil となったのだとか。ちなみに木材はバイオリンなどの弦楽器の弓の材料としても重宝されたそうです。（今井）



NPO法人日本園芸福祉普及協会

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58

TEL:03-3266-0666 FAX:03-3266-0667